

(1)

円 C の中心の座標は $(0, \frac{2-p}{2})$ 、半径は $\frac{2+p}{2}$ で与えられる。

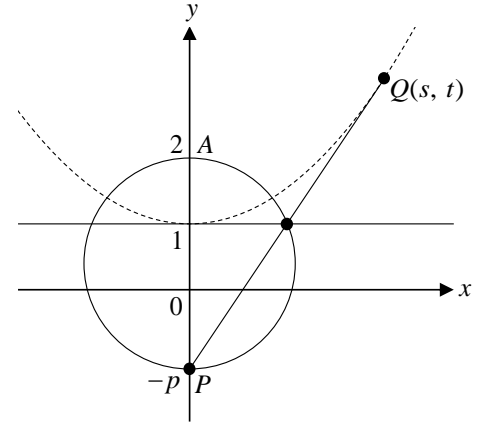
$x^2 + (y - \frac{2-p}{2})^2 = \frac{(2+p)^2}{4}$ に、 $y=1$ を代入すると

$$x^2 + \left(\frac{p}{2}\right)^2 = \frac{(2+p)^2}{4} \quad x^2 = \frac{4+4p+p^2}{4} - \frac{p^2}{4} = 1+p$$

$$x = \pm\sqrt{1+p}$$

$s \geq 0$ より、 PQ の中点は $(\sqrt{1+p}, 1)$ であるから

$$\frac{s}{2} = \sqrt{1+p}, \frac{t-p}{2} = 1 \quad \therefore s = 2\sqrt{1+p}, t = 2+p \quad \dots\dots (\text{答})$$



(2)

$$s^2 = 4(1+p) \text{ より } p = \frac{1}{4}s^2 - 1 \quad \therefore t = 2+p = \frac{1}{4}s^2 + 1$$

$p > 0$ より $s > 2$ であるから、 Q 全体が動く曲線は $\therefore y = \frac{1}{4}x^2 + 1 (x > 2) \quad \dots\dots (\text{答})$

次に、直線 PQ の傾きは $\frac{2+p+p}{2\sqrt{1+p}} = \frac{2(1+p)}{2\sqrt{1+p}} = \sqrt{1+p}$ 直線 PQ の式は $y = \sqrt{1+p}x - p$

$$\frac{1}{4}x^2 + 1 = \sqrt{1+p}x - p \text{ とすると } x^2 - 4\sqrt{1+p}x + 4(1+p) = 0 \quad (x - 2\sqrt{1+p})^2 = 0$$

重解 $x = 2\sqrt{1+p}$ を持ち、なおかつその重解は (1) で求めた s に等しい。

したがって、直線 PQ は、曲線 $\frac{1}{4}x^2 + 1$ の、点 Q における接線である。(証明終)